

愛知商高の取り組み 家庭科教科書に

ユネスコクラブの活動が紹介されている「家庭総合」の教科書



同校では、二〇一一年度に授業で養蜂を始め、生徒有志が商品開発に発展させて部活動になった。東日本大震災を受けた東北支援として、一三年に岩手県陸前高田市特産の「米崎りんご」をまぜたアイスクリーム「希望のはちみつりんご」を、一四年にはガーナ産力カオを活用したアイスクリーム「幸せのはちみつ力カオ」を発売した。力カオは、途上国の製品を適正価格で購入するフェアトレードの認定を受けている。家庭科の教科書は東京書籍（東京都北区）が発刊する「家庭基礎」と「家庭総合」の二種類。ともに「経

愛知商業高校（名古屋市東区）の部活動「ユネスコクラブ」が、今月から高校で使われる家庭科の教科書と現代社会の資料集で取り上げられた。校舎の屋上でミツバチを育て、採れた蜂蜜と途上国や東北の特産品を使って商品を開発する取り組みで、教科書類に掲載されるのは初めて。生徒たちは「活動が評価されたようでうれしい」と喜んでいる。

（戸川祐馬）

高校生の活動 互いに学ぼう

養蜂や商品開発で社会貢献



東京書籍は「活躍する高校生を多く取り上げる」という方針で、本年度から使われる家庭科の教科書の編集作業に当たったという。愛知商業以外にも、巻頭や各章で枠を設けて全国の高校生の取り組みを紹介。巻頭には、愛知県立大府高校（大府市）の学校家庭クラブが開発したリンゴとタマネギのジャムも載せた。

浜島書店は二〇一一年度から、三重県立相可高校（多気町）の調理クラブが運営するレストラン「まごの店」を皮切りに毎年、表紙に

詰め込みから転換

「新生活」の章で、消費行動で社会貢献できる一例としてフェアトレードの概念を挙げ、実際に地域で活動す

主体的学習に重点

高校生を起用。中部地方では、女子高生が携わる福井県鯖江市役所JK課も一六年度に掲載された。中央教育審議会のワーキンググループの委員を務めた愛知教育大の土屋武志教授（学校教育学）は、背景に国が打ち出した教育方針の変化があると指摘する。これまでのように教員が一方的に教えて知識を詰め込む授業ではなく、生徒同士で主体的に学び合う姿勢を重視しており、次期学習指導要領で柱になるとされている。土屋教授は「高校生の活動を教科書で取り上げ、これからの学びの姿を示している」と解説す

自分の活動が掲載された教科書や資料集を手にするユネスコクラブのメンバー（名古屋市東区）

は「高校生がはちみつで『まちおこし』と東北支援」と題した説明を載せた。同世代の活動を示して社会の課題に関心を持ってもらうのが狙いで、編集担当者は「社会の役に立ちたいという高校生の思いが紙面から伝われば」と願う。同校が今年六月に発売する英語の読み物教材にも、ユネスコクラブの活動が載る予定だ。